

平成23年度 第1回高知県立図書館協議会 議事録

- 1 期日： 平成23年9月8日（木）午前10時00分～12時00分
- 2 場所： 高知県立図書館 3階大会議室
- 3 出席者： 12人
委員：加藤勉（議長）、岡敦子、吉本寛子、古川佳代子、森本智香
事務局：吉成克仁館長、宮脇敬子次長、大野まゆみチーフ（支援協力担当）、
山重壮一チーフ（利用サービス担当）、谷岡祥子チーフ（情報資料担当）
高知県教育委員会：平野博紀生涯学習課長、岡村祐人主幹
傍聴：1人
- 4 議事内容
 - ・ 開会 宮脇次長
 - ・ 挨拶 吉成館長
 - ・ 議長選出 加藤委員
 - ・ 議事録署名人選出 吉本委員

議題

（1）今年度予算と事業執行の状況 事務局説明

質疑の概要

- （委員）物的支援の充実。いろいろな交流、ネットワークができるのはすばらしい。小・中の学校図書館支援も広げていただきたい。
- （委員）支援をいただいてありがたいと思っているが、県立図書館職員全員が2人ずつくらいで担当市町村を持ち、課題を見つけて支援担当と議論をし、その市町村に投げかける。予算の中に市町村支援事業として計上するなど、県立図書館職員全体で市町村を支援するという意志を持つことが大事ではないか。長期に見守るもの、担当が替わっても新図書館になってもできる枠組を作っておく事が必要。
- （館長）課題解決型図書館を目指し、職員全員が専門分野を持つ。その人材育成や市町村支援に結びつくようにする仕組みづくりを考えている。
- （委員）浦安の図書館でこのような職員構成の例をみた。全員が重層的に担当を持っている。これを市町村支援に組み入れていけないか。
- （事務局）浦安のような市立では、基本的に司書は全員窓口立つが、それだけの担当というのではなく、一人の司書が複数の担当を持ち、話し合いながら進めるというのが標準的なスタイル。県立では、組織が大きいので一定の区分が必要。幅広く経験を積んで、ひととおりのわかるようになって、市町村に適切な支援を行えるというのが理想。
- （委員）県立図書館としての姿勢を持つことが底力を見せることになると思う。
- （議長）各支援先の図書館について、担当が替わっても使える現状シートなどをまとめているか。
- （館長）各市町村を巡回したときに課題などをまとめたシートを作っている。
- （委員）研修は本当に助かっている。市町村で研修は無理。体系的にぜひ続けていただきたい。
- （委員）他機関との連携が進んでいる事に可能性を感じる。出版業界紙の記事コピーをお配りする。ポプラ社の社長が図書館の購入費用、入札のことについて書いている。光を注ぐ交付金で図書館の資料費が増えた。それはすばらしいことだが、これまでになかった競争入札という流れが出てきた。仕入れ値以下で落札という現状もあり、子どもたちの身近でがんばっている書店にとって厳しい状況になっている。県として書店も含めて文化の発信地であるという視点を持っていただきたい。

- (議長) 現在の県立図書館の書籍の購入システムは入札か。
- (館長) 現在は書店商業組合との随意契約。地場の書店から購入しているが、新図書館になってのことはこれからの課題。
- (委員) 県立図書館は随意契約だが、他の市町村では競争入札というのはどういうことか。
- (館長) 契約の規則の中で競争すべきものというのは決められている。
- (委員) 県立図書館では書店と連携していっしょに高まっていくという意志を感じる。ぜひ、それを県内のいろんな図書に関するところに広めていただきたい。
- (議長) 図書館だけでなく、行政側の問題もあるかと思う。
- (委員) これからの県立図書館にすごく期待するところは市町村支援。県立しかできないこと。ますますの充実と発展をお願いしたい。中央ブロック支援の担当は何人か。
- (事務局) 1名。
- (委員) 中央ブロック15市町村を1人で38回巡回訪問か。2ヶ月に1回行けるくらいか。
- (事務局) 1回に数ヶ所、関係機関も含めて巡回しているので、1ヶ月に1〜2回は訪問するようにしている。
- (委員) 1ヶ所での滞在時間は。
- (事務局) まちまち。1時間ないところもあれば、相談で時間がかかる場合もある。
- (委員) 本気で取り組むのなら担当を増やしていただきたい。図書館のない市町村などでこれからの新図書館や市町村支援の事を聞かれる。期待されている。無理かもしれないが、1日や2日カウンターにも立つなどして地域の現状を知る中から、それぞれの支援方法が浮かんでくるのではないか。せめて担当を増やし、滞在時間を増やす。口には出せない瑣末な問題でも1人では解決できない問題がある、そこに気付く県立図書館の職員がいたらうれしい。合築図書館で高知市が担当の窓口で県立職員も出るというところを県内の図書館に広げるといふ方向があってもいい。ブロックをもっと細かくし、全職員が担当町村を持ち、複数の目でこまめな支援をすることがいいのではないか。中央ブロック以外への支援について、その目標も示してほしい。学校図書館も、先生の異動などで本の分類や配架がまちまちになっていたりする。1人で何とかするのは難しい。SLAとの連携で、何年か計画で進められないか。合築するからこそ、他の県立図書館ではまだやってないようなサービスを取り入れる。ソフト面、人的支援は日本一をめざす。
- (館長) 市町村支援は県立図書館の使命と思っている。充実には人が必要だと思っている。現在、中央ブロックを1人で回っているが、始まったばかりで、ニーズ把握をしている段階。それを基に具体的な支援計画を練り直していかないといけない。目標は、各市町村図書館としての考えを持ってもらうということ。一番感じているのは図書館の体制の問題。体制の弱さ、課題を認識してもらうことが大事。県立から手厚く支援というのは人的なものがクリアできれば可能なことだが、最終的な目標は市町村で独自にやって行ける体制をつくって行くという事にあると思っている。
- (生涯学習課長) 今、社会教育委員会で子ども読書活動推進計画をまとめる議論をし、パブリックコメントを募集している。指導要領も変わって、学校図書館が大事な存在になってきた。図書館担当の先生だけでなく、学校全体として学校図書館を認識し、盛り上げていくと言う基本的な方法を県として進めていこうと考えている。教育センターに企画監を置いて、研修を強化し、教員のスキルアップを図っている。予算が厳しいところがあるが、学校図書館支援員の小中学校配置をやっている。
- (議長) 各市町村図書館の自立のための支援という県立図書館の方針を市町村も理解し、自分のところの問題を洗い出す。お互いの自覚、確認が大事。県立への依存になってはいけない。
- (委員) 子ども読書活動推進計画の中に学校図書館支援がある。現在は学校によって取り組みに格差がある。学力向上を下支えするためには学校図書館活動の充実が必要である。(新図書館へ

の要望資料を配る。) 他県ではいろいろなパターンの学校図書館支援センターがある。スペースは狭くても専任の担当がいれば学校支援ができるので新図書館に学校図書館支援センターを作ってほしい。子どもたちにつけたい「生きる力」のひとつとして、課題を見つけ、調べ、表現し、発信する力がある。その力をつけるために公共図書館の支援を頼りにしている。教員にとって閉館時間や駐車場の問題があって現在思うように利用できていない。新図書館では物流システムの機能を充実して、子どもの学習に即した資料をそろえたコンテナを作って、各学校への巡回機能を作って欲しい。いくら立派な図書館ができて、学習情報センターとして、子どもたちが利用しづらい、教員が行きにくいのでは宝の持ち腐れになる。学校図書館支援に対する人的配置予算もいれていただき、運営方法などソフト面も緻密に考えてほしい。学校図書館支援に特化した関係者会を開いて意見を聞いていただきたい。

(委員) 物流システムで、土佐市では、学校からの要望を受けて県立から借り、学校へ送っている。充分活用している。

(委員) 高知市の問題。学校の数が多く、必要な時というのが難しい。回ってこない学校も多く、格差ができる。本を多くそろえ、うまくシステムを考えてほしい。

(2) 新図書館基本計画の実現に向けた新しいサービスのあり方 館長説明

質疑の概要

(委員) 新図書館基本計画にある「子ども読書活動支援センター」に加えて、学習支援のための「学校図書館支援センター」の計画も入れていただきたい。また、特別支援教育コーナーも充実していただきたい。

(事務局) 新図書館では、基本計画にもあるひとつの特徴として、子ども読書研究室の機能を大幅に拡張する。児童図書を研究するということもあるが、子どもについての関連領域まで広げてスペース的にも大きくする。他の図書館で見られない特徴になると考えている。

(委員) 特別支援の必要な子どもが急激に増えている。香川の公立図書館では小さいけれど特別支援教育・発達障害の子どもをもつ親のための子育て支援コーナーがあった。悩んでいる人、相談窓口を知らない人のためになるのでぜひ計画に入れていただきたい。

(委員) 市町村支援を大項目にあげてほしい。県立図書館の考え方のありよう、姿勢が見える。新図書館でもブロック担当がいるが、トータルで見る窓口が必要と強く思う。

(館長) 市町村支援の重要性は感じている。ここでは分類として、図書館の存在意義を高める項目に入れた。

(委員) 視点が違うと思う。

(議長) 新図書館自体、直接サービスが念頭に強いように思える。市町村支援は背景にちゃんとあり、ないがしろになっているわけではないが。

(委員) 市町村で担当が課題意識を持っていても上の方になかなか…という悩みを聞いた。市町村図書館の横のつながり、情報交換の場などはあるか。意識を持っていても形にしていく事の難しさがある。図書館の存在意義を高めることは大事な事。若い方にどんどん図書館に来てほしい。県のテレビ番組などで高校生を起用したCMなどはどうか。面白そうだから行ってみようという盛り上がりもあるかなど。

(館長) 市町村で担当が問題をよくわかっている上の方に持つていくのが難しいというのは、痛感している。今回の巡回では教育長とか担当課長といった方にも会って話をするように努めた。これから力を入れていかなければいけないところだと思っている。

(議長) 新図書館の利用促進のためのPRなどの計画は今のところどうか。

(事務局) PR計画まではできていない。数値的な目標、利用の拡大は考えている。かなりの投入がされるので、それに見合った利用は引き出さないといけないと思っている。貸出冊数でいうと、今の県立と高知市民本館の合計の倍の90万冊、100万冊までは増やしたい。市町村

支援でも、県立からの貸出というより各市町村の貸出や利用が伸びるようにしていきたい。
(館長) 新図書館では、ヤングアダルトサービスのコーナーを特に設ける。こういうことで若い人にも親しんでもらえるようになるのではないかと考えている。

(委員) 障害者サービスに力を入れているようでうれしい。必要とする人に届くよう、県内図書館で活用法なども含めた研修をやっていただきたい。担当が変わってもサービスに支障がないように毎年継続する。特別支援学校などにも広報し、新しい教材作りなどのスキルアップを図れるような体系的な勉強の機会があるといい。拘置所や県庁出張図書館の話があったが、病院で長期入院中の子どもなどが楽しめる出張図書館なども考えてほしい。視聴覚ライブラリーについては高知市が担当なのか。県内誰でもが利用できるが、担当が高知市ということか。

(事務局) 視聴覚資料については、まだ整理できてないところがあるが、視聴覚資料の対象が県の視聴覚ライブラリーと市の視聴覚ライブラリーで性格が全く違う。新図書館では、中で観るというより貸し出せるものを貸し出す。ただ視聴覚資料の場合は著作権の制限が大変厳しいので、収集にあたっては、通常の映画等より課題解決といったことを意識した方向がいいのではないかと考えている。電子書籍やデータベースなどとも複合的に関連してくる。スペースの配置なども含めて難しい課題になっている。

(3) 今後の県内図書館振興について 事務局説明

質疑の概要

(委員) 県立図書館が振興策を持っているということは本当に意味のあること。(案)のままでなく、もう一步進めたらという願いがある。

(議長) (案)を取る道はあるのか。

(生涯学習課長) 前に県立図書館で作った時から変わった点もあるので、(案)を取るのであれば、もう一度きちんと県も入ってやらなくてはいけないと教育委員会事務局の中でも考えている。今は新図書館の話も進み、子ども読書活動推進計画も骨子ができてきた。具体的な時期まではまだだが、この次は県の図書館振興策を考えていきたいとは思っている。

(委員) 図書館の存在意義がだんだん高まってきていると実感する。

(委員) 案について達成度合いを評価するというのはやりがいがない気もするが、自分の中では(案)がないつもり。次の振興策でさらに練られたものができ、ますます達成度合いが高まることを祈っている。

(議長) 県が文化的な政策をどうするのかという大本の振興計画ができるだろう。その中の関わりになるだろう。お金がない中でスタッフとして「日本一」をめざすことに尽きる。

(4) その他

特になし

(議長) 新図書館に向けてハード面はどんどん進んでいる。現場職員の打ち合わせも順調と聞いている。今のうちにケンカは全てしておいて、発足時には仲良く進めていただきたい。

午前12時00分 図書館協議会終了